

科目名	音楽療法各論Ⅲ	形態	講義	開講期	秋学期
担当教員	栗林 文雄	単位	2	年次	3

### ＝授業科目の目標＝

1. 効果的な音楽療法の実践を行うための基礎知識として、高齢者の特徴について理解を高める。
  2. 音楽療法の実践に活かせるように、高齢者に対する音楽療法の理論と方法を習得する。
  3. 効果的な音楽療法実践の基礎知識として、高齢者に対する音楽療法の研究についての知識を習得する。
  4. 高齢者を対象とした音楽療法体験の計画、ならびにプログラムを立てることができるようになる。
- ※日本音楽療法学会で認定する音楽療法士（補）受験資格を取得するために必要な科目である。主専攻以外の学生が取得する場合は、音楽療法について学ぶ意欲を持っていること。また、音楽療法総論も履修していることが望ましい。

### ＝履修の条件と学習の方法＝

加齢現象についての基礎知識，ありがちな障害や病気についての理解を促し，彼らに対する音楽療法における留意点，援助活動における課題点などを理解する。講義形式が中心であるが，ロールプレイによる実際の学習も加えられる。

- ・ 専攻学生以外の学生が履修する場合、音楽療法総論も履修していることが望ましいが、専攻学生に対する配当年次を見ること。その学年以下の学生は、履修出来ないものとする。
- ・ 体調不良や家庭の事情で欠席する場合は、授業開始までにメールか電話にて連絡を入れること。欠席した場合は、前の授業で何が配布されたかを他の受講生に聞いて確認しレポートを作成提出すること。
- ・ 授業で扱う内容については、シラバスや授業進行スケジュールに従い事前に読んでおくこと。

### ＝授業内容＝

- 第1回 イン트로ダクション，老化についての概説
- 第2回 老化についての研究 明治の歌
- 第3回 高齢化の理論
- 第4回 高齢化に関連した障がい 明治の歌
- 第5回 加齢に関連した心理学的な障がい・疾患
- 第6回 加齢に関連した身体的な障がい・疾患1 大正の歌
- 第7回 加齢に関連した身体的な障がい・疾患2
- 第8回 音楽と記憶 大正の歌
- 第9回 治療へのアプローチ
- 第10回 音楽療法の実践 アセスメント，治療デザイン 昭和初期から20年までの歌
- 第11回 効果的な音楽活用
- 第12回 根拠に基づいた実践 療法的関係 昭和21年から40年までの歌
- 第13回 ホスピスの音楽療法／集団歌唱活動の実際 昭和21年から40年までの歌
- 第14回 ホスピスの音楽療法／集団歌唱活動の実際 昭和21年から40年までの歌
- 第15回 まとめ 期末テスト（授業期間内実施）

## ＝成績評価の方法と評価の基準＝

- ・ レポート課題 25%、出席点 25%、期末テスト 50%。
- ・ 無断遅刻は1%、無断欠席は2%の減点。課題提出の遅れも一日遅れる毎に1%の減点となる。
- ・ これらの点数を合計し、90点以上はS、80点～90点未満はA、70～80点未満はB、60～70点未満はC、60点未満はDとなる。

## ＝テキスト（必携）＝

《No. 1》

書籍名：音楽療法入門 II 第3版、

著者名：デイビス他（著）栗林文雄（訳）

出版社：一麦出版社

《No. 2》

書籍名：ホスピスの心を語る CD付 音楽が拓くスピリチュアルケア

著者名：柏木哲夫／栗林文雄 著

出版社：一麦出版社